

こんぼくやま いそべ べんざいてんこふんぐん
20. 今北山・磯部・弁財天古墳群

所在地：鯖江市落井町・磯部町・乙坂今北町地係

調査原因：範囲内容確認調査

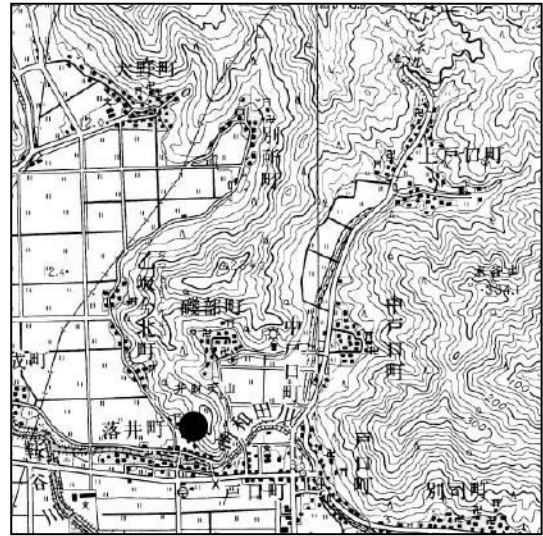
調査期間：平成 22 年 8 月 16 日

～平成 23 年 3 月 31 日

調査主体：鯖江市教育委員会

調査面積：約 600 m²

時代：弥生・古墳時代ほか



位置図 (S = 1/50,000)

調査の概要 本遺跡は鯖江市東部の低丘陵に位置し総数 63 基の古墳や墳墓（以下、まとめて古墳と記述）が分布しています。とりわけ今北山古墳群には丹南地域最大規模の今北山古墳（前方後円墳・全長 76m）ほか比較的大型の古墳が未調査ながら確認されており、その重要性から平成 16 年に市指定文化財（史跡）となっています。市では本遺跡の国史跡指定を目指し、基礎資料を得るため複数年の調査計画を立て、平成 22 年度から基数や形状など内容把握を目的とした発掘調査に着手しました。初年度となる今回は、最も南側に位置する弁財天古墳群について調査を行いました。

遺構 古墳の存在が不明瞭な丘陵尾根筋を中心に、総延長約 800m のトレンチを設定し遺構確認を行いました。この結果、古墳の存在を想定していなかった支尾根急斜面にまで遺構が広がり、その多くが古墳を区画するための溝でした。溝に区画された古墳と思われるマウンドのうち、古墳群南端のものを抽出し主体部の検出を行ったところ、幅 1.0m、長さ 3.0m の北西-南東方向に主軸をもつ主体部が検出されました。このほか、トレンチ内には少なからず主体部の可能性が高いものも確認されています。その他、尾根上の数箇所において幅 4m 以上深さ 2m 以上の規模をもつ箱堀状ないし薬研堀状の溝を検出しました。本古墳群の位置する丘陵縁辺部では帯状にめぐる郭が明瞭に確認できますので、これらの遺構については山城跡に伴う堀切と考えられます。

出土遺物 出土遺物は細片のみでコンテナ 1 箱に満たないものでした。多くは弥生時代後期終末から古墳時代前期のものとみられ、葬送に伴う供献土器の一部とみられます。これ以外に、古代の須恵器の細片も確認されていますが、堀切に伴う遺物は確認できませんでした。

まとめ 弁財天古墳群は、総数 43 基以上（推定）の比較的小規模な墳墓および古墳からなる古墳群で、出土土器からその築造時期は弥生時代後期終末から古墳時代前期を大きく逸脱するものではないと考えられます。しかし、少なからず円墳を含むなど古墳群の形成過程を考える上で問題点も残りました。これらの点については、次年度以降に実施される今北山古墳群や磯部古墳群の調査結果を待ち、古墳群全体の中で詳細を検討していく必要性がありそうです。
(深川義之)



古墳群から望む鯖江市街



主体部検出状況 (3-1 トレンチ)



周溝 (4-1 トレンチ)



周溝内遺物出土状況 (4-1 トレンチ)



堀切状遺構 (4-3-1 トレンチ)



堀切状遺構 (5-1-1 トレンチ)



遺物出土状況 (4-1-1 トレンチ)



遺物出土状況 (11-1 トレンチ)